

## 福岡地域の MSM における HIV 感染対策の企画と実施

研究分担者：山本政弘（独立行政法人国立病院機構九州医療センター・AIDS/HIV 総合治療センター 部長）

研究協力者：牧園祐也、戸川貴一郎（Love Act Fukuoka/公益財団法人エイズ予防財団）  
請田貴史、片山久也、北村紀代子、狭間隆司、橋口卓（Love Act Fukuoka）  
井上緑（独立行政法人国立病院機構九州医療センター）、塩野徳史、金子典代、  
市川誠一（名古屋市立大学看護学部）

### 研究要旨

本研究は、2002 年から主に福岡地域の MSM に対し、当事者主体の HIV 感染予防啓発活動を行っている NGO「Love Act Fukuoka」による、コミュニティベースでの予防啓発の企画と実施、その評価を行ったものである。

2011 年度から 2013 年度にかけて、下記の研究と評価を行った。

#### 1. コミュニティセンター haco の運営

2006 年に、コミュニティベースでの HIV 感染予防啓発普及拠点として、MSM 向け商業施設が集まる福岡市博多区住吉に開設したコミュニティセンター haco(以下、haco)の運営を継続して行った。

#### 2. コミュニティセンターを基点とした予防啓発プログラムの実施

haco を基点とした予防啓発プログラムを実施した。山梨県立大学の本間隆之氏の協力により行ったロジックモデル分析を用いて、各プログラムの見直しと改善を行った。2012 年度には、haco に来場する福岡在住 HIV 陽性者の協力により、新たな啓発資材として「福岡の HIV 陽性者手記集」を作成し、ゲイコミュニティに配布した。

#### 3. HIV 陽性者ピアサポートの試行

2012 年度から、HIV 陽性者のセルフマネジメント向上を目的とした新たな試みとして、日本 HIV 陽性者ネットワーク・ジャンププラスとの協働により「HIV 陽性者交流会 at 福岡」の開催を始めた。

#### 4. ゲイコミュニティとの協働

ゲイコミュニティ活性化とその中での HIV 予防啓発を目的に MSM 向け商業施設スタンプラリーイベント「マルハク」を 2011 年 7 月 16 日～8 月 13 日に開催した。また当事者主体型啓発活動として、ゲイバーマスター等のゲイコミュニティにおけるキーパーソンと協働したイベント「RED RIBBON GAMES」を 2011 年度と 2013 年度に開催した。

#### 5. MSM を対象とした HIV 即日検査会の実施

低調を続ける MSM の受検行動促進および検査機会の創成を目的に「さぎやま泌尿器クリニック」と協働して MSM を対象とした HIV 即日検査会を実施した。

#### 6. 行政との協働

福岡県と福岡市と協働し、エイズデーに関連した検査の広報や資材の作成、またセクシュアリティ理解のための研修会の開催などを行った。

## 7. MSM における行動科学調査および介入評価

2011 年度に MSM を対象とした HIV 即日検査会受検者を対象とした質問紙調査を実施した。2012 年度と 2013 年度に福岡市内の保健所における HIV 抗体検査受検者を対象とした質問紙調査を実施した。2011 年度から 2013 年度にかけてコミュニティネットワークを用いた MSM を対象とする性の健康、HIV/AIDS 感染予防行動に関する質問紙調査を実施した。

### A. 研究目的

わが国における HIV 感染者および AIDS 患者の累計報告数は年々増加を続けており、中でも日本国籍男性 MSM の HIV 感染者の増加が著しく、年間報告の過半数を占めている状況である。男性同性間の性的接触による HIV 感染者および AIDS 患者は、関東や関西地域のみならず、九州地域においても同様に増加が続いている。厚生労働省エイズ動向委員会の報告によれば、2013 年 11 月時点での沖縄県を除く九州地域の HIV 感染者報告数は累計 641 名、AIDS 患者報告数は累計 353 名となっており、地域における感染拡大防止に向けた啓発普及は急務となっている。

九州地区のブロック拠点病院である九州医療センターにおいても累積患者数は 500 名を越えている。そのほとんどは MSM であり、患者増加は一向に減少傾向を示さない。(付図 1) また、昨今の保健所検査相談事業の低迷を反映して、献血や郵送検査での陽性判明が増加している(付図 2、3)。検査機会の減少は早期発見早期治療の妨げとなり、陽性者の健康障害となるだけでなく、感染拡大の要因ともなる。

本研究では、九州の中でも特にゲイコミュニティの規模の大きな福岡地域における、NGO 「Love Act Fukuoka」(以下 LAF) による当事者性を重視した MSM の HIV 感染予防啓発の企画と実施、そしてその評価を行った。

### B. 研究方法

#### 1. コミュニティセンター haco の運営

2006 年から、コミュニティベースでの HIV 感染予防啓発普及拠点として、MSM 向け商業

施設が集まる福岡市博多区住吉にコミュニティセンター haco(以下、haco)が開設され、LAF が公益財団法人エイズ予防財団より事業受託し運営を行っている。コミュニティセンターへの来場は、MSM が直接予防啓発事業に触れることとなるため、その来場は重要である。

現在の開館時間は、木曜～日曜の 18 時～22 時。祝日は開館。最終日曜は LAF 定例ミーティングのため休館としている。実施するプログラムや、利用希望があった場合は、上記時間外の対応も行っている。また、インターネット利用者も視野に入れた幅広い MSM の誘導を目的に、haco のウェブサイトの運営も行い、haco で開催するイベントや勉強会、その他プログラムに関する情報を発信している。

#### 2. コミュニティセンターを基点とした予防啓発プログラムの実施

haco を基点とした予防啓発プログラムを実施した。山梨県立大学の本間隆之氏の協力により行ったロジックモデル分析を用いて、2012 年度に各プログラムの見直しと改善を行った。

##### 1) コミュニティセンター来場者に対する啓発プログラム：勉強会の開催

性感染症についての正確な情報を提供すること、また性感染症および自分の性について話しやすい場を作ること、参加者の抱えている疑問や不安を解消し、リスクの高い性行為の回避に繋げることを目的に、haco で勉強会を開催している。2010 年は不定期の開催であったが、2011 年からは「気になる HIV」としてほぼ毎月の開催を始め、2013 年度からは「パコカル」として名称変を変更し継続して

毎月開催した。参加しやすさ、親しみやすさを重視し、講師が一方的に話す講演形式ではなく、参加者も交えたワーク形式で企画を行い、参加への興味を集めるとともに、楽しみながら知識を身に付けられる構成を目指した。

## 2) 啓発資料の作成と配布

haco を基点とした啓発資料の配布は、ゲイコミュニティに対して HIV の問題と啓発活動を可視化させる有効な手段であり、その有用性はこれまでの研究結果からも証明されている。

福岡では 2004 年から、ゲイコミュニティにおけるセーファーセックスの規範構築を目的に、性感染症に関する様々な情報や、保健所等における HIV 抗体検査情報を掲載した「コミュニティペーパーseason」（以下、「season」）を作成し、オリジナルデザインの Condom とともに福岡市博多区および北九州市小倉北区の MSM 向け商業施設を中心に配布してきた。

2011 年度は、MSM 向け商業施設に設置している Condom ディスペンサーの老朽化に伴い、新たに啓発資料を入れるケースを取り付けた改良型のディスペンサーを制作し、配布した。

2012 年度は、「season」の普及促進を目的に #30 号より紙面の見直しを行い、文字を大きくする、文章は簡潔にまとめる、煩雑な情報は整理して記載するなどの改善をした。また鹿児島県のゲイバー1 店舗から資料設置希望があり「season」の郵送を開始した。新たな啓発資料として、haco に来場する福岡在住の HIV 陽性者の協力により「福岡の HIV 陽性者手記集」を 2,000 部作成し、ゲイコミュニティに配布した。福岡は地方都市ゆえにゲイコミュニティのクローゼット性も高く、HIV 陽性者が自身の感染を誰かに打ち明けることは東京などの大都市よりもさらに困難な状況がある。それゆえ、MSM は HIV に対する身近さやリアリティを感じる事ができず、検査行

動や予防行動につながりにくい。手記集は HIV のリアリティを伝えるために有効な啓発資料であると言える。

2013 年度は、改善した「season」を継続して作成し配布した。9 月に開催された 3rd RED RIBBON GAMES のパンフレット作成に伴い、予算の都合から 1 号休刊し、#32 号～#33 号の計 2 号を作成し配布した。#34 号は、平成 26 年 2 月の作成・発行を予定している。

## 3. HIV 陽性者ピアサポートの試行

HIV 陽性者においては、感染後のセルフマネージメントが必要であり、そのことは感染拡大予防や二重感染にも繋がるが、日常生活における細かな事柄等はプライバシーやセクシュアリティなどにも関係するため、医療機関その他では相談しづらい状況がある。そのため、当時者同士によるピアサポートは HIV 陽性者のセルフマネージメント向上のため極めて有効である。

haco 開設以降、来場する HIV 陽性者から「当事者同士で集まれる場所が欲しい」との声が多く寄せられていたが、福岡には HIV 陽性者ピアサポートの場がなかったため、リソースを他地域に求めるしかない状況であった。そのような中、LAF ボランティアスタッフから「福岡でピアサポートグループを立ち上げたい」という申し出があったため、彼をプログラムリーダーとして、特定非営利活動法人日本 HIV 陽性者ネットワーク・ジャンププラス（以下、JaNP+）との協働により、福岡における HIV 陽性者ピアサポートの試行として、2012 年度より「HIV 陽性者交流会 at 福岡」の開催を始めた。

会場はプライバシー保護の観点から非公開とした。対象はゲイ・バイセクシュアル男性のみとし、広報は九州医療センターでのフライヤー設置と、HIV 陽性者向け SNS 「Ferry」で行った。また参加申し込みは JaNP+ ウェブサイトを通じ受け付けた。

#### 4. ゲイコミュニティとの協働

2009年から、福岡のゲイコミュニティ活性化とその中でのHIV予防啓発を目的に開催しているMSM向け商業施設スタンプラリーイベント「マルハク」を、2011年7月16日～8月13日に開催した。

また当事者主体型啓発として、ゲイバーマスター等のゲイコミュニティにおけるキーパーソンと協働したイベント「RED RIBBON GAMES」(以下、RRG)を、2011年10月9日と2013年9月29日に開催した。RRGは、2010年にスポーツサークルを主催する市内6店舗のゲイバーマスターとの協働により始まった、複数種目の競技大会を同日に開催するというイベントである。2010年の実績により、2011年からは福岡県の後援を得て実施した。毎回、500名～600名ほどのMSM参加者が集まっており、参加者に対し予防啓発のメッセージを伝えてきた。広報にあたっては、大会パンフレット5,000部とポスター200枚を作成し、主に九州地域のMSM向け商業施設約100店舗へ配布および送付した。大会参加者には、LAFが作成したオリジナルデザインのコンドーム等の啓発資材を配布した。

#### 5. MSMを対象としたHIV即日検査会の実施

低調を続けるMSMの受検行動促進および検査機会創成を目的に「さぎやま泌尿器クリニック」と協働してMSMを対象としたHIV即日検査会を実施した。

2011年度は、RRGの開催に合わせ、翌日の10月10日月曜祝日、10時～17時まで受付の単日の検査会として実施した。検査内容はHIV迅速検査、梅毒、B型肝炎の3種類とした。広報はRRGのパンフレットに受検の際に必要なチケットを付属してRRG参加者およびパンフレット取得者を誘導した。

2012年度は、6月～11月までの6ヶ月間の検査キャンペーンとして実施した。検査はクリニックの通常診療時間内で実施することと

し、内容はHIV迅速検査および確認検査、梅毒、B型肝炎の3種類とした。広報はフライヤー3,000部を作成し、市内のMSM向け商業施設を中心に配布した。

2013年度は、2012年度と同様に7月19日～9月末日までの検査キャンペーンとして実施した。内容は予算の関係からHIV迅速検査および確認検査までとした。

検査はいずれも無料・匿名とし、予約はhacoのウェブサイトを経由した前日までの電話予約とした。受検者が検査を十分に理解した上で受検を選択できるように、ウェブサイト内に特設ページを作成し、検査に関する詳細な情報を掲載した。検査後のケアと予防介入のため、電話相談を行っているエイズ・ワークス・福岡のパンフレット、hacoのパンフレット、コンドーム1個の資材セットを作成し、検査後の受検者に提供した。

#### 6. 行政との協働

福岡では、2002年から九州医療センターが主体となり、福岡県、福岡市、LAFが一同に会し、その年のHIV関連事業における協働について検討する「セクシュアルヘルス懇談会」を開催し、連携体制を構築している。2013年まで毎年開催し、検討を行った。

#### 7. MSMにおけるHIV感染の行動科学調査および介入評価研究

##### 1) MSM対象のHIV抗体検査会の受検者を対象とした質問紙調査

2011年度にMSM対象に実施したHIV抗体検査会の受検者を対象に質問紙によるアンケート調査を行った。

##### 2) 福岡市内の保健所におけるHIV抗体検査受検者を対象とした質問紙調査

2012年度と2013年度に、福岡市中央区、西区、博多区(2012年10月より)保健所の協力を得て、HIV抗体検査受検者を対象に質

問紙調査を実施した。

3) コミュニティネットワークを用いた MSM を対象とする性の健康、HIV/AIDS 感染予防行動に関する質問紙調査 - GCQ アンケート -

2011 年度から 2013 年度にかけて、コミュニティネットワークを用いてインターネットによる性の健康に関する質問紙調査(以下、GCQ アンケート)として、クラブイベント等と連携した横断調査、その後の追跡パネル調査を実施した。本調査は全国で同一の方法を用いて行われており、配布地域を明らかにするため各地域で固有の QR コードを設定した。質問の内容は基本属性、検査行動、性行動、性感染症既往歴、HIV に関する対話経験、周囲の感染者の有無、予防介入プログラムへの接触状況などとした。

### C. 研究結果および考察

#### 1. コミュニティセンターhaco の運営

haco への来場は MSM が直接予防啓発事業に触れることとなるため、その来場は重要である。3年間の来場者の推移は付図4の通りであった。

2011 年度と比較して、2012 年度は来場者が増加し、総来場者数は前年比 138%、初来場者数は前年比 131%となった。MSM に人気の高い作家によるイラスト展の開催など、ほぼ毎月展示会を開催したことで来場するきっかけを多く作りだしたことや、クラブイベント出演者のダンスレッスン目的での利用が多かったためと考えられる。

2013 年度(12 月末まで)は 2012 年度と比較して新規来場者数は前年比 63%と減少傾向であったものの、サークルでの利用などは増加して総来場者数では前年比 104%で上回っており、地域に根ざした拠点としての定着が見られた。今後は、まだセンターに来場していない MSM を誘導するための機会創出が課題である。

#### 2. コミュニティセンターを基点とした予防啓発プログラムの実施

##### 1) コミュニティセンター来場者に対する啓発プログラム：勉強会の開催

2011 年度から 2013 年度の 3 年間の実績は付表 1 の通りであった。水溶性ローションやコンドームを実際に手にとって実験するなど、楽しめる企画を盛り込んだ参加型とすることで、毎回一定の来場者を得ることができた。勉強会は直接の啓発機会でもあるため、できるだけ多くの参加を得ることが重要となる。新たな企画の際には参加者も集まったが、以前にも行った内容の繰り返しでは飽きられる傾向があった。毎月継続して開催するにあたり、常に新しい企画を提案し続けることにも限界があるため、人気のあった企画をブラッシュアップし定型化するなど、継続するための工夫を考える必要がある。また、参加者が欲する知識のニーズも様々であるため、参加しやすさを追求するだけでなく、より専門的な知識を提供する企画も考える必要がある。

##### 2) 啓発資材の作成と配布

3 年間の啓発資材配布実績は付表 2 の通りであった。

##### 3. HIV 陽性者ピアサポートの試行

当プログラムは 2012 年度から開始し、参加者は全員新規であった。参加した HIV 陽性者からは、セルフマネジメントが向上したとの声を多数聞くことができた。HIV 陽性者のセルフマネジメントの向上が感染拡大の予防に繋がる可能性が示唆された。今後は広報を中核拠点病院にも広げ、定期的な開催を目指したいと考える。福岡地域における HIV 陽性者の受け皿となるよう、運営を安定させることが課題である。

##### 4. ゲイコミュニティとの協働

2011 年の RRG 総参加者数は累計 699 名で

あった。2013年のRRG参加者数は合計497名となり、多くのMSMに対する啓発機会となった。

#### 5. MSMを対象としたHIV即日検査会の実施

2011年度の結果は受検者61名。その内、HIV迅速検査の陽性判定は3名であった。3名は2週間のうちに医療センターを受診し、全員の陽性が確認された。陽性率は5%ほどであった。これは、他の地域で行われているMSM特化の検査会とほぼ同等の値であり、日本におけるMSM間でのHIV感染増加が示唆された。多くの受検者が集まったのはRRGと日程を合わせたことも大きい。アクセスしやすい中央区天神という場所にクリニックがあったことや、実施日が祝日であったこと、さらに受付が長時間であったことも要因として大きいと考えられる。保健所等におけるHIV検査の受検者を今以上に増やすためには、時間や場所等の利便性の向上を検討する必要があることが示唆された。

2012年度の結果は、受検者74名。その内HIV迅速検査の陽性判定は6名であった。6名のうち、確認検査後の陽性判定は3名であった。3名は拠点病院を紹介し、全員の受診が確認された。検査キャンペーンにおけるHIV陽性率は、昨年のRRGで行った検査会とほぼ同じ4%ほどで、MSMにおけるHIV感染率の高さが示された。

2013年度の結果は、受検者18名。HIV迅速検査の陽性判定は1名、確認検査後の陽性判定は0名であった。昨年度と比較すると、受検者数はさほど伸びなかった。キャンペーン実施期間が2ヶ月弱と短く、広報が十分に届く前にキャンペーンが終了してしまったことが要因として考えられる。

検査会および検査キャンペーンの実施は、多くのMSMに対する検査機会を提供するとともに、HIV検査に対するニーズを明らかにした。また、日本におけるMSMのHIV感染増加

を示唆する結果となった。HIV検査は全国的に受検者の減少が続いているが、ニーズに対応すれば受検者は増える。早期発見早期治療を目指すためにも、行政における検査環境の改善は必須である。保健所での検査数が低迷したまま回復の兆しを見せない今、行政における検査環境の改善と、検査機会拡大のためのクリニックにおける対象を限定した検査の促進が必要である。

#### 6. 行政との協働

セクシュアルヘルス懇談会での検討の結果、下記の協働を行った。

##### 1) 福岡県

###### 福岡県HIV・エイズ検査相談研修

2012年度に、福岡県と九州医療センターとの協働により、福岡県域の保健所職員および医療関係者を対象としたHIV/AIDSに関する研修会を共催した。LAFは午後のグループワークを担当し、セクシュアリティ理解のための講演を行うとともに、検査相談の場における性の多様性を踏まえた対応を参加者と検討した。

###### コミュニティセンターウェブサイトでの世界エイズデー夜間・休日検査情報掲載

2012年度に、福岡県からの依頼によりhacoのウェブサイトに福岡県の管轄する保健所で実施される世界エイズデー夜間・休日検査の情報を掲載し広報を行った。

###### 世界エイズデー夜間・休日検査の広報資料作成

2013年度に、福岡県が管轄する保健所で実施される夜間・休日検査の広報のためのフライヤーを5,000部作成し、MSM向け商業施設に配布した。またウェブサイトでの広報も行った。

## 2)福岡市

### 福岡市エイズ対策研修会

2012年度に、福岡市との協働により市内保健所の検査従事者および職員を対象に、主に検査相談対応の質の向上を目的とした研修会を開催した。研修会では、LAFのボランティアスタッフでありJaNP+のスピーカー研修を受けたHIV陽性者が、検査を受けなかった理由や保健所で感染告知を受けた当時の心境や状況など、当事者のリアルな声を話した。保健所職員は告知後の受検者について知ることがないため、HIV陽性者のリアルな姿と生活を見せることで、業務の重要性を再確認する機会を作ることができた。参加者は18名であった。

2013年度も同様に、2014年2月7日に研修会開催を予定している。

### 特例即日エイズ検査広報資料の作成

2012年度に、福岡市中央区と博多区の保健所で実施される特例即日エイズ検査の広報資料としてフライヤー6,000部を作成し、MSM向け商業施設へ配布した。またフライヤーと連動してhacoのウェブサイトでの広報も行った。

2013年度も同様に、中央区保健所で実施される特例即日エイズ検査の広報資料としてフライヤー3,000部を作成し配布した。またhacoのウェブサイトでの広報も行った。

### オリジナルデザインコンドームの作成

2012年度と2013年度に、ゲイコミュニティへの配布を目的としたオリジナルデザインコンドームを約7,500個作成し、検査広報フライヤーとともにMSM向け商業施設へ配布した。

## 7.MSMにおける行動科学調査および介入評価

### 1)MSM対象のHIV抗体検査会受検者を対象とした質問紙調査

2011年度に実施したRRGの検査受検者61名にアンケートを行い、60名の有効回答を得た。HIV検査の受検経験があるものは43名

(71.7%)であった。受検経験がある43名のうち、利用した検査機関は、保健所の即日検査が41.9%と最も多かった。最後に受けた検査時期は、過去1年以上前が27名であり、定期的に受検していないものが69.8%を占めていた。

### 2)福岡市内の保健所におけるHIV抗体検査受検者を対象とした質問紙調査

2012年度のアンケート調査協力機関における受検件数は第2四半期(2012年4月-6月)が329件、第3四半期(2012年7月-9月)が305件、第4四半期(2012年10月-12月)が436件で全期間の総受検者数1,070件のうち陽性判明数は2件(0.19%)であった。アンケート回収数は第2四半期が252件(回収率76.6%)、第3四半期が211件(69.2%)、第4四半期が320件(73.4%)であった。第2四半期、第3四半期、第4四半期それぞれの初回受検者割合は62.7%、54.0%、51.9%、24歳以下割合は18.3%、22.3%、23.4%、MSM割合は13.5%、14.2%、14.4%、性風俗利用者割合は24.2%、22.3%、25.0%、性風俗従業者割合は7.5%、7.6%、5.6%であった。MSMの特性を把握するため、受検経験に着目し、初受検者と再受検者の差異を検討した。初受検者MSMのなかで、自発的検査割合は72.7%であったのに対し、再受検者MSMでは94.7%であり、再受検者MSMで自発的に検査を受検した割合が有意に高かった( $p=0.02$ )。

広報資料認知について、行政の紙資料・ポスター広報誌、行政のホームページ、NGO資料、HIVマップ、HIV・検査相談マップ、AC広告のいずれかの資料を認知していた割合については、初受検者MSMの54.5%に対し、再受検者MSMで94.7%であり、再受検者MSMで認知が有意に高かった( $p<0.01$ )。資料別では、特に行政の紙資料やNGO資料の認知が初受検者MSMに比べ再受検者MSMで有意に高かった(それぞれ $p=0.02$ 、 $p<0.01$ )。

保健所における HIV 検査受検者のなかで MSM 割合が 15%近くに及んでおり、特に MSM 再受検者は、大多数が自発的に検査を受検していた。資材認知についても、行政の作成した資材や NGO の作成した資材の認知割合が MSM 初受検者に比べ、MSM 再受検者で大きく上昇しており、初受検後にそれらの資材の触れ、再び検査受検をした可能性が高いと考えられる。ゲイコミュニティに向けた啓発資材の提供を含む HIV 検査に関する情報提供を今後も積極的に継続する必要がある。また、HIV 検査を受検したことがない層に向けた検査促進についても検討していくべきと考えられる。

### 3) コミュニティネットワークを用いた MSM を対象とする性の健康、HIV/AIDS 感染予防行動に関する質問紙調査 - GCQ アンケート -

2011 年度は、RRG 参加者に対して GCQ アンケートを実施した。全国から参加者が集まるイベントであったため、359 件の有効回答を得たが、分析対象は沖縄を除く九州地域に居住する MSM213 名と限定した。福岡県内居住者が 8 割であり、29 歳以下が 2/3 近くを占める回答であった。ゲイバーは 29 歳以下、40 歳以上の利用頻度が高かった。ゲイナイト、スマホ向けアプリ、サークルは 29 歳以下の利用が多かった。友人・知人に HIV 感染者が「いる」とした回答は全体で 33.3%、友人・知人と HIV/AIDS について話したことが「ある」とした回答は全体で 61.0%であった。後者は年齢による差異があり、29 歳以下は 71.8%で 30 歳以上の群 (53-56%) より高かった。

HIV 検査の受検経験割合は、生涯受検では 61.0%で、年齢別にみると 29 歳以下が 61.2%、30-39 歳 62.1%、40 歳以上 58.5%とほぼ同程度であった。また過去 1 年間の受検経験率は 29.6%で、29 歳以下 31.8%、30-39 歳 29.9%、40 歳以上 24.4%と 40 歳以上で低いことが示された。

haco への訪問率は全体で 45.5%、「season」

の既読率は 70.4%、LAF が配布しているコンドームを持ち帰った割合(過去 1 年)は 58.7%と半数を超えていた。

2012 年度は、クラブイベントと連携して 5 月に実施し、その後 7 月、9 月、12 月に実施した。4-5 月の横断調査では 403 件の有効回答を得た。(ただしこの 403 件には他地域で実施した調査で、居住地が沖縄県を除く九州地域であると回答した人を含む。) 5 月は 107 件、7 月は 91 件、9 月は 89 件、12 月は 78 件の有効回答を得た。4-5 月に実施したインターネットによる横断調査の 403 件の有効回答について分析を行った。

基礎属性は 29 歳以下の者が約 60%であり、若い年齢層が最も多かった。過去 6 ヶ月のゲイバー利用は 29 歳以下で 73%、30 歳代 77%、40 歳代 70%であった。

検査受検行動については、生涯の HIV 検査受検経験は 29 歳以下では 45%、30 歳では 65%、40 歳代では 72%であった。検査経験のある者のうち過去 1 年の受検経験割合は、29 歳以下では 60%、30-39 歳 45%、40 歳代 50%であった。過去 6 か月間のアナルセックス経験はいずれの年齢層でも 82-83%であり、差が見られなかった。

haco 来訪経験は 29 歳以下では 26%、30 歳代 36%、40 歳以上 42%であり、40 歳以上が最も高かった。「season」の既読割合は 29 歳以下では 45%、30 歳代 66%、40 歳以上 58%と 30 歳代で最も高かった。

対象層の年齢層は、29 歳以下が 60%であり、昨年度の RRG(29 歳以下:40%)、バー調査(29 歳以下:32%)と比較しても若い年齢層の方が多かった。検査経験のある者のうち過去 1 年の受検経験割合は、29 歳以下では 60%、30-39 歳 45%、40 歳代 50%であった。検査行動については、40 歳以上の年齢層では、生涯の検査経験割合、過去 1 年の検査経験ともに RRG の調査(それぞれ 29%、24%)より上がっていた。性行動はいずれの年齢層でも 82-83%



であり、昨年の RRG での調査とほとんど差が見られなかった。今回は対象者の追跡が可能なパネル調査も実施し、総計 4 回調査を実施した。九州地域は追跡が 1 回可能であった対象者は 107 名であった、2 回以上継続できたものは 61-91 名であり、分析の精度を上げるためにはより一層対象者の確保が必要となる。追跡可能性は 50.0% であり、他地域より若干低く、より一層の第 1 回での回答者数確保と継続協力依頼が重要となる。また介入の目的や介入の対象層については明確にターゲットを定め、集中して介入を実施しその前後で調査を行うことで活動効果評価ができるようになることが考えられる。

2013 年度は、2013 年 4 月 16 日から 7 月 21 日までの約 3 ヶ月間で 908 人の回答を得た。そのうち重複回答を除く、九州地域在住のゲイ・バイセクシュアル男性および MSM は 595 人であった（有効回答率 65.5%）。また他地域の QR コードから回答した九州地域在住のゲイ・バイセクシュアル男性および MSM が 54 人おり、合わせて 649 人を分析対象とした。

生涯におけるゲイ向け商業施設利用割合はゲイバーが最も高く 92.9%、次いでスマートフォンのゲイ向けアプリ 72.6%、ゲイナイト 68.7%、携帯出会い系サイト 68.6% 等であった。ゲイバーやゲイナイト、有料のハッテン場等は年齢層が高いほど利用割合が高く、スマートフォンのゲイ向けアプリやゲイ向けサークル等は 25-29 歳層が他の年代層に比べ高かった。

生涯の HIV 抗体検査受検割合は年齢層によって異なり 30-34 歳が最も高く 70.5%、次いで 25-29 歳 67.9%、35-39 歳 67.3%、40 歳以上 55.4%、24 歳以下 50.4% であった ( $p < 0.01$ )。過去 1 年間の HIV 抗体検査受検割合も年齢層によって異なり 25-29 歳が最も高く 41.7%、次いで 24 歳以下 38.8%、35-39 歳 30.8%、30-34 歳 30.1%、40 歳以上 22.8% であった ( $p = 0.01$ )。40 歳以上では検査行動が

促進されていないことが示唆された。

haco の来場経験割合では 40 歳以上が最も高く 39.1%、次いで 35-39 歳 38.5%、30-34 歳 34.0%、25-29 歳 30.4%、24 歳以下 18.6% であった ( $p < 0.01$ )。「season」の既読割合は 35-39 歳が最も高く 67.3%、次いで 30-34 歳 58.3%、25-29 歳 55.4%、40 歳以上 55.4%、24 歳以下 32.6% であった ( $p < 0.01$ )。博多の検査行動促進キャンペーンキャラクターの認知は 35-39 歳が最も高く 52.9%、次いで 25-29 歳 50.0%、30-34 歳 45.5%、40 歳以上 38.0%、24 歳以下 35.7% であった ( $p = 0.03$ )。コミュニティセンターやコミュニティペーパーの接触状況には蓄積効果がみられ、年齢層が高くなると来場割合や既読割合は高くなるが、新規のキャンペーンキャラクターの認知は 40 歳以上と 24 歳以下では他の年齢層に比べ低かったと考えられる。

コンドーム使用状況については年齢層における差はみられず、全体で 41.9% と低い割合にとどまっている。一方で検査行動に関してはこれまでの啓発介入が届いていた年代層 (25-39 歳) では、再受検も含めて検査行動が促進された可能性が考えられる。しかし 40 歳以上では介入効果はみられず、検査行動促進にはいたらなかったと思われる。また 24 歳以下では介入への浸透度が低く若年層向けに活動を拡大していくことが望まれる。

## E. 結語

haco は地域に根差した啓発拠点として機能しており、MSM の HIV 予防啓発を推進していくうえで重要な役割を果たしているが、MSM における感染拡大は依然持続しており、今後もさらに訴求力のある企画やイベント、プログラムを随時開発し、新規来場者の誘導と啓発普及を進めていく必要がある。他地域のコミュニティセンターや JaNP+ などの関連団体と積極的に連携しながら、日本の HIV 感染対策におけるネットワークを構築していくこ

とが重要であると考える。

個別施策層に対する予防啓発は、対象の属するコミュニティとの協働が必要不可欠である。ゲイコミュニティのキーパーソンと協働し開催してきた RRG が、今回で一旦の終了となった。ゲイバーマスターなどキーパーソンの世代交代も進んでおり、ゲイコミュニティの現状に応じた新たな協働方法を模索しなければならない。

新たな問題としては、MSM の薬物使用と HIV 感染の関連性が注目される。HIV 感染者における薬物使用経験割合は年々増加しており、ゲイコミュニティに対する薬物蔓延防止の取り組みは今後の課題である。

また、低調する保健所での検査数に反し、郵送検査数が年々増加している現状がある。郵送検査は未だ十分な整備がされていないため、早急に整備を進める必要がある。

新世代の若年層における新規 HIV 感染や、中高年層の AIDS 発症増加など、MSM の HIV 啓発普及における新たな課題が見え始めている。これまで各地域で実施されてきた MSM への啓発普及の継続はもちろんの事、新たな課題に対する取り組みを早急に検討し実施することが必要である。

## F. 発表論文等

( 印は当研究班に関連した発表論文等 )

(論文発表)

1. 塩野徳史, 金子典代, 市川誠一, 山本政弘, 健山正男, 内海眞, 木村哲, 生島嗣, 鬼塚哲郎: MSM (Men who have sex with men) における HIV 抗体検査受検行動と受検意図の促進要因に関する研究, 日本公衆衛生学雑誌, 60(10), 639-650, 2013
2. 須貝恵, 鈴木智子, センテノ田村恵子, 辻典子, 井内亜紀子, 濱本京子, 吉用緑, 山本政弘: 活用状況を考慮した「拠点病院診療案内」のあり方についての検討 拠点病院診療案内の

活用に関するアンケート調査より, 日本エイズ学会雑誌, 15(3), 199-200, 2013

3. 須貝恵, 辻典子, 吉用緑, センテノ田村恵子, 鈴木智子, 井内亜紀子, 濱本京子, 山本政弘: 拠点病院の患者紹介現状から考える医療体制の課題 拠点病院から拠点病院以外の医療機関への患者紹介実績調査より, 日本エイズ学会雑誌, 15(3), 201-203, 2013

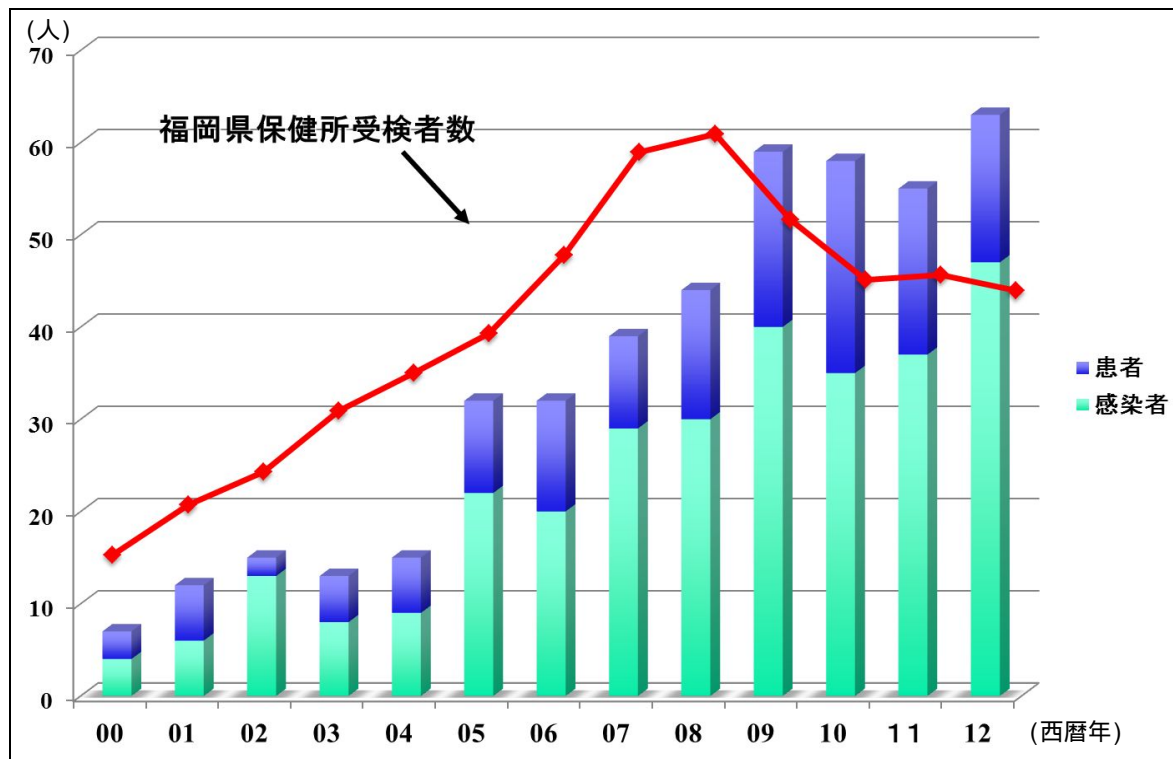
(学会発表)

1. 牧園裕也, 荒木順子, 石田敏彦, 太田貴, 金城健, 後藤大輔, 伊藤俊広, 内海眞, 鬼塚哲郎, 山本政弘, 健山正男, 塩野徳史, 金子典代, 市川誠一: MSM 向けエイズ対策としてのコミュニティセンターの意義と妥当性の検討, 第27回日本エイズ学会学術集会・総会, 熊本市, 2013
2. 今村葉子, 戸川貴一朗, 與那嶺敦: 地方における HIV 陽性者、そのサポートは? ~ プライバシー守秘と孤立解消の取り組み、九州・沖縄でのトライアルを通して ~, 第27回日本エイズ学会学術集会・総会, 熊本市, 2013
3. 牧園祐也, 鷺山和幸, 山本政弘, 北村紀代子, 塩野徳史: MSM 対象の HIV/STI 迅速検査会実施と CBO ターゲットアプローチの考察, 第26回日本エイズ学会学術集会・総会, 横浜市, 2012
4. 辻麻理子, 阪木淳子, 曾我真知恵, 米山朋子, 石坂昌子, 長与由紀子, 松尾聖曆, 緒方积, 長浦由紀, 財津和宏, 友枝紗記, 藪内文明, 泉真理子, 久米信也, 茂志保, 牧園祐也, 野田雅美, 斉藤和義, 山本政弘: 九州ブロックにおける自治体と中核拠点病院等が協働した HIV 検査相談研修会実施のための体制整備を目的とする講師養成会議と研修会実施について, 第26回日本エイズ学会学術集会・総会, 横浜市, 2012
5. 町登志雄, 木南拓也, 藤浦裕二, 牧園祐也, 塩野徳史, 市川誠一: ゲイ・バイセクシュアル男性を対象としたアウトリーチ・アウトリーチ・マニュアル作成を通じて - 第26回日本エイズ学会学術集会・総会, 横浜市, 2012

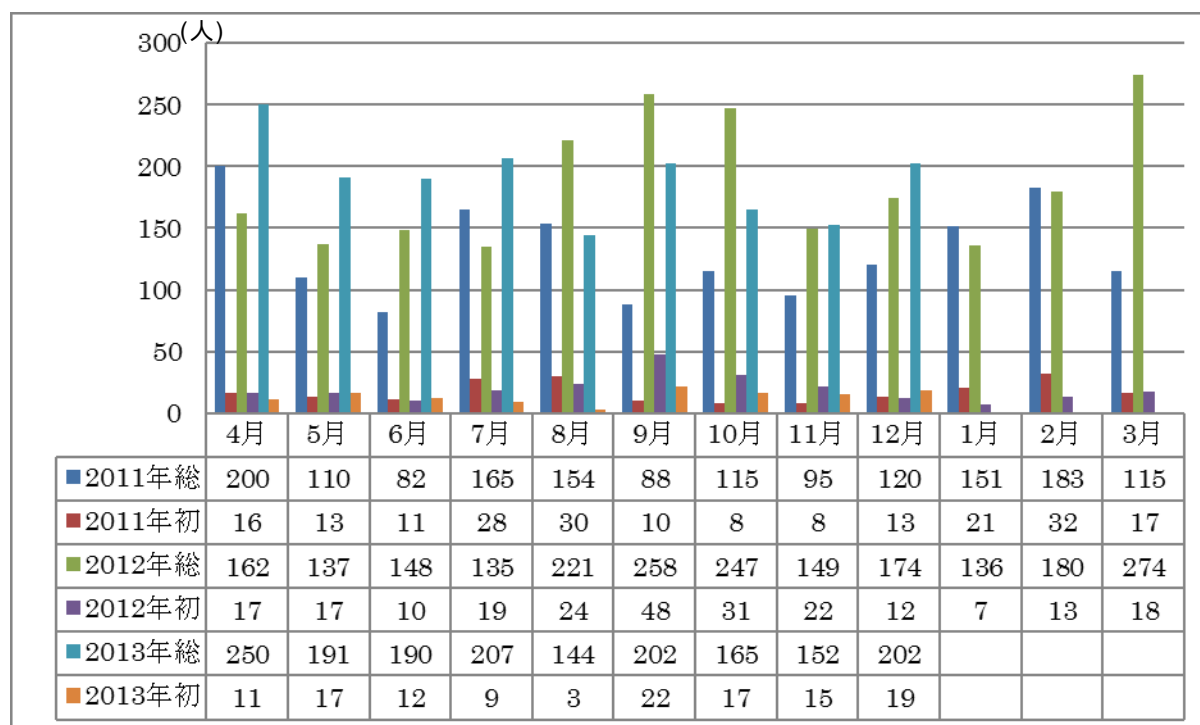
6. 新ヶ江章友,塩野徳史,金子典代,牧園祐也, 請田貴史,川本大輔,北村紀代子,辻潤一,橋口卓,狭間隆司,山本政弘,市川誠一:福岡のゲイ商業施設利用者を対象としたHIV/AIDSをめぐる啓発活動効果評価,第25回日本エイズ学会学術集会・総会,東京,2011
7. 塩野徳史,新ヶ江章友,金子典代,市川誠一,山本政弘,健山正男,内海眞,生島嗣,鬼塚哲郎:ゲイ向け商業施設利用者対象の質問紙調査による地域別予防啓発事業の評価に関する研究,第25回日本エイズ学会学術集会・総会,東京,2011



付図3 福岡県保健所受検者数と感染者患者報告数の推移



付図4 2011～2013年度のコミュニティセンターhaco 月別総来場者数と新規来場者数の推移



付表1 2011年度～2013年度の勉強会の実績

2011年度

実施日	タイトル	来場者数
8月5日	ゲイバーマスター向け勉強会	21名
8月26日	「we'st」vol,1 -HIV-	5名
10月28日	「we'st」vol,2 -AIDS-	3名
12月9日	「we'st」vol,3 -HIV/AIDSの検査-	5名
合計		34名

2012年度「気になるHIV」

実施日	タイトル	来場者数
6月3日	コンドーム試着室	5名
7月8日	どのくらいの人がHIVに感染している？	8名
8月5日	HIVに感染したらどうなるの？	7名
9月2日	HIVはどうひろがるの？	3名
10月7日	オリジナルブレンドのローションを作ろう！	3名
11月14日	自分にぴったりのローションを見つけよう！	7名
12月2日	意外と知らないコンドーム	9名
1月6日	姫初め！？乙女のたしなみ～シャワ浣の世界～	7名
2月10日	48はAKBだけじゃない！～48の体位を完全攻略～	5名
3月3日	気持ちのいいセックスって何？気功に学ぶLove&Sex	6名
合計		60名

2013年度「パコカル」

実施日	タイトル	来場者数
4月7日	ローション&コンドーム	8名
5月12日	教科書には載ってない歴史上の人物と『男』の関係	10名
6月	(構成再検討のため休会)	0名
7月7日	HIV検査って何をするの？	3名
8月11日	70年代の文学に触れ合う官能の夏	4名
9月1日	HIVの基礎講座	3名
10月6日	HIV検査の種類と変遷	4名
11月3日	HIVの基礎講座	4名
12月1日	「UNITED IN ANGER -ACT UPの歴史-」上映会	11名
1月5日	姫はじめにピッタリなシャワ浣&コンドーム	8名
合計		55名

付表 2 : 2011 年年度から 2013 年年度の啓発資材配布実績

2011 年		2012 年		2013 年	
実施日	参加者数	実施日	参加者数	実施日	参加者数
6 月 18 日	6 名	6 月 30 日	4 名	5 月 25 日	5 名
6 月 25 日	3 名	7 月 1 日	6 名	5 月 26 日	5 名
7 月 23 日	8 名	9 月 22 日	4 名	8 月 3 日	8 名
8 月 7 日	6 名	9 月 23 日	5 名	8 月 4 日	6 名
9 月 3 日	7 名	11 月 17 日	6 名	11 月 23 日	3 名
9 月 24 日	6 名	11 月 18 日	6 名	11 月 24 日	3 名
11 月 19 日	7 名	2 月 16 日	5 名	-	-
11 月 20 日	8 名	2 月 17 日	4 名	-	-
合計	51 名	合計	40 名	合計	30 名